

分析分科会 H20 年度第 1 回運営委員会議事録案

日時:2008 年 4 月 18 日 13:30~17:00

会場:東京八重洲ホール 411 室

出席者:順不同敬称略

上本(東京都)、奥野(埼玉県)、城谷(埼玉県)、地形(埼玉県)

小池(長野県)、小畑(和歌山県)、大橋(名古屋市)、

小島、永井、衣笠、前田、福本(以上産総研)、一石(産総研・事務局)

議事

1. 委員紹介

- ・名簿配布・自己紹介。

埼玉県:会長機関となるので地形氏が加わり委員 3 名体制であたる。

2. 年間日程

- ・第 2 回運営委員会も同じ会場を予定。
- ・21 年度(和歌山県)は分析単独開催。
- ・20 年度(長野県)会場:メルパルク(長野駅から徒歩 5 分)

PC 5 台及びプロジェクタ 2 台は長野県が手配。駅からの案内看板はコンベンションビュ
ーローを利用できる。特別講演は知的クラスター創成事業関係。県テクノ財団、ナノテク
材料活用支援センターの紹介も含める。演題と講師が確定次第事務局に報せる。

←その後

テーマ:「信州クラスター 形成～ナノテク・材料活用支援センター活動の取り組み」

講師:財団法人長野県テクノ財団知的クラスター本部ナノテク・材料活用支援センター
コーディネーター 若林信一氏

に決定

- ・見学は 100 名 1 ヶ所は困難。50 名ずつ班分け予定。中堅企業で候補を選定。終了後市内
に戻る。

←その後(株)鈴木とオリオン機械(株)に決定

- ・共同分析試料 5g/袋を 1 試料とする。

JFE は 2g で 2 回分析。(ただし溶解は 1 回と思われる)分析フローなどを取り寄せて詳細
を再確認する。当分科会では秤量、溶解からの全操作を 2 回行う事とする。

報告値は有効数字より 1 桁多めで 4 桁とする。試料 72 個。分析に 5 個使用。

←その後 JFE から連絡あり

試験結果報告書

1. 件名

分析用試料の作成

2. 試料の作成

2.1 無電解ニッケル-りん皮膜試料

厚さ $60\mu\text{m}$ × 約 378g(風袋込み) 1種

2.2 試料の粉砕

試料の粉砕には、(株)レッチェ製 MM301 型ミキサーミルを用いた。粉砕条件を Table 1 に示した。また、粉砕後 60メッシュの篩を用いて分級し、>60メッシュを除いた。これにより約 365g の粉体試料が得られた。

Table 1 皮膜の粉砕条件

項目	条件
粉砕時間	3分
振動頻度	30回/秒
粉砕容器	ステンレス製粉砕ジャー 50mL
粉砕ボール	ステンレス製 15mmφ
粉砕量	約 25g/バッチ

2.3 試料の袋詰

試料 5.0g を秤取り袋詰を行った。No.1~No.72 まで、数量 72 の小分け試料を作成した。

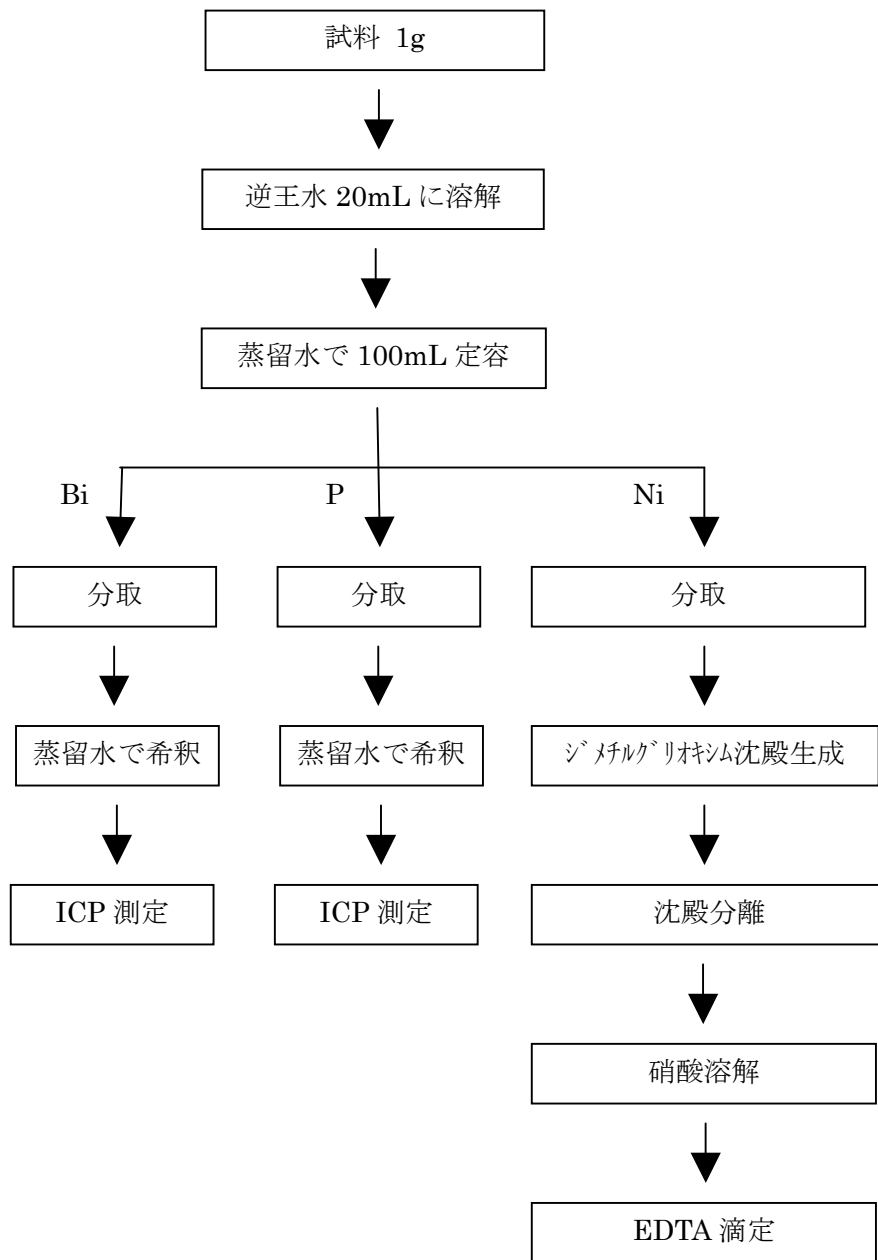
3. 試料の分析調査

3.1 分析方法(別紙に概要を示す)

Ni: ジメチルグリキシム沈殿分離エチレンジアミン四酢酸ニ水素ニナトリウム滴定法

P: ICP 発光分光分析法

Bi: ICP 発光分光分析法



3. 会計報告

資料配付。

- ・ 19 年度決算報告、参加費支払者 114 名（分析・計測合計）
- ・ 試料調製費は翌年度の共同実験用を年会後、当年度内に検収完了し支出する。

4. 年会プログラム

- ・ プログラム、タイムスケジュールの案を提示。詳細は要調整。

5. 共同研究

・ 材料評価→表面もやる（ハフニウムまたは絶縁物の分析を予定）←その後 HfO₂ 膜に決定

- ・ 臭素系難燃剤についても検討。需要はあるはず。（ペンディング）←その後取りやめ
- ・ 5月上旬に開催案内出す。4月内に決めたい。
- ・ 提出シートについて（提出シートは資料送付時に同送。）
- ・ フレームレス→ファーンレス、キャリアーガス→キャリアーガス にする。
- ・ wt%は質量分率(%)に直す。
- ・ Zスコアは例年通り4分位数で計算する。

6. その他

- ・ 50周年事業 PDF化自体は間もなく終了する。目次作り。

体裁も大事なのでレーベルのデザインを得意な人に依頼する。

- ・ NITE 審査員研修が6 / 2 ~ 6 @つくば開催予定
- ・ トレーサビリティ普及に関する取り組み（前田）

研修の実施や技能試験（試験所間比較）などにむけたシステム科の取り組み紹介。

分析分科会の活動と旨く連携させて、公設試の民間企業へのトレーサビリティ普及指導能力を高める方法を検討している。